

## いにしえの海と神戸

2024年2月10日（土）～ 3月17日（日）

古くから海は、人々の生活・文化・技術などに深く関わってきました。弥生時代には、大陸より海を経由して水稻農耕や金属器など新しい技術や文化が伝わります。それらは農耕や紡織、マツリに用いる祭器、そして争いに使用する武器など、用途に応じた様々な道具としてあらわれ、人々の生活は大きく変化しました。このなかで海との深い関わりを示す道具には漁労具があります。神戸市内でも、海辺の集落だけでなく山中の集落から見つかっており、人々の営みが海と密接していたことがわかります。古墳時代になると、海上交通の重要性が増していきます。海上を支配したとされる人々の思いや力は、海岸部に近い場所に古墳を造営することで、あらわれていきました。今回の展示では、「海」をテーマに、神戸市内から見つかった弥生時代・古墳時代の考古資料をご紹介します。



伯母野山遺跡出土 有溝石錘  
当館蔵

### [出品資料]

指定	資料名（所蔵番号または所蔵）	作者	材質技法	員数	時代
	有溝石錘		石	3点	弥生時代中期（1世紀）
	弥生土器・飯蛸壺		土	6点	弥生時代中期（1世紀）
	鉄鏃		鉄製品	1点	弥生時代中期（1世紀）
	土製紡錘車		土製品	3点	弥生時代中期（1世紀）
	三角縁唐草文帯四神四獣鏡（複製）		樹脂	1点	
	車輪石（複製）		樹脂	1点	
	石釧（複製）		樹脂	1点	